

## 会社情報

設立 平成24年

従業員数 0名

代表者 東野早奈絵

## 蝦夷和紙工房 紙びより

### 蝦夷和紙工房 紙びより 北海道の素材や風土を生かした紙を作る

北海道では唯一と言える和紙職人として、手すき和紙の製造・販売を主に、和紙アート制作や紙すき体験指導などを手がける。



代表 / 和紙職人・和紙作家  
東野早奈絵



企業向けの商品とミニカタログ

### 時間の使い方への アドバイスも

わたし自身の時間の使い方にも改善アドバイスがありました。「職人として製造に専念する曜日と、ショップ営業する曜日を分けてはどうか」と。明確に分けることで、効率よく製造・販売できる体制に切り替えることができました。

### 蝦夷和紙新製品の新規開発を通じてビジネス分野への進出

#### 製造と販売の両立に課題が

和紙の魅力を知った東野早奈絵氏は、和紙生産日本一の福井県で5年間、伝統的な手すき和紙の製法を習得。その後、地元札幌市に戻り工房を構えた。以来、自ら企画を立て製品をつくり、販売を行う。売り方は主にデパートの催事コーナーやさっぽろ雪まつりといったイベント会場での対面販売がメイン。工房に構えたショップコーナーでも販売しているが、接客に時間が取られる割に販売に結びつかない場合もあり、製造と販売の両立が課題と感じていた。

商品的には北海道らしい光景などをデザインに盛り込んだ「ゆきふみ」というはがきは、道内の女性客やインバウンド客のおみやげ品として一定の好評を得る人気商品に成長した。一方、はがき、しおり、コースター、和紙皿、アートパネルといった作品を手がけてきたものの、いずれも少量生産・少量販売にとどまっていた。次なるヒット作を求めて、打開策を模索していた。

#### デザイナーのアドバイスでビジネスユースへ

そんな時、一般社団法人さっぽろ産業振興財団が定期配信するメールマガジンにふと目がとまった。そこに掲載されていたフォーラムを知り、参加した。会場で今回の「札幌ものづくり×デザイナープロジェクト」を知り、申し込むことに。プロジェクトではビジネス経験豊富なデザイナーが担当として派遣された。丁寧なヒアリングなどを経て、BtoCの事業からBtoBへと方向転換を提案された。東野氏もチャンスと、個人客から企業ユースへと事業転換に取り組むことにした。

商材は以前から引き合いがあった名刺と、会社の販促品の意味合いもあるカレンダー。「蝦夷和紙BUSINESS」と銘打ち、企業向けのビジネスラインのミニカタログも整備した。「ゆきふみ」のはがきは20枚ロットで1枚500円(税別、以下同じ)、「オヒョウニレ」の標準大判(670×970ミリ)は50枚ロットで1枚4,000円など。こうして人気商品のリニューアルを契機に、企業相手のフロントエンド商材が整い、今後のビジネス展開に期待が持たれている。



工房では東野氏が自ら手すき和紙を生産する



工房内のショップコーナーで販売される「ゆきふみ」シリーズほか

札幌市厚別区厚別北3条5丁目33-5  
TEL 011-891-8424

<https://ameblo.jp/kamibiyori/>

